

健康・介護・福祉用具の展示コーナーの開催と評価

—聖路加国際大学「聖路加健康ナビスポット：るかなび」の取り組み—

朝川久美子¹⁾ 亀井 智子^{1) 2)} 高橋 恵子¹⁾ 白倉 清美¹⁾
 菱沼 典子²⁾ 山田 雅子²⁾ 佐藤 直子²⁾ 佐藤 晋巨³⁾

Implementation and Assessment of a Health / Nursing Care / Assistive Device Display Area —St. Luke's International University's "St. Luke's Health Navigation Spot : LukeNavi" Initiative—

Kumiko ASAKAWA, RN¹⁾ Tomoko KAMEI, RN, PHN, PhD^{1) 2)} Keiko TAKAHASHI, RN, PhD¹⁾
 Kiyomi SHIRAKURA¹⁾ Michiko HISHINUMA, RN, PhD²⁾ Masako YAMADA, RN, PHN, MSN, CNS²⁾
 Naoko SATO, RN, MS, CNS²⁾ Kuniko SATO, MA³⁾

[Abstract]

As part of the activities of the People-Centered Care (PCC) Research Department at St. Luke's International University's Research Center, we provide a health information service, "St. Luke's Health Navigation Spot 'LukeNavi,'" in the local community, as an information service on health, nursing care, and available assistive devices. We have developed a display on health, nursing care, and assistive devices for citizens with the cooperation of related corporations to help improve the health literacy of citizens, who can use the LukeNavi system, which is a source of the latest information, and meets a variety of needs regarding the proper use of health/nursing care/assistive devices. For a one-month period from September 5 to 30, 2016, LukeNavi was set up in a corner of a public library's reading room as a display on health/nursing care/assistive devices. During this period, LukeNavi received approximately 377 visitors, 65 of whom responded to a questionnaire about the display. The results of the questionnaire suggested that the display satisfied citizens' needs and contributed to the improvement of their health literacy. We believe that it will be meaningful to continuously implement other health/nursing care/assistive device displays in the future with the cooperation of related corporations.

[Key words] health literacy, health/nursing care/assistive devices, corporate display

[要旨]

聖路加国際大学研究センター PCC 実践開発研究部の活動の一つに、地域に開く健康情報サービス「聖路加健康ナビスポット：るかなび」（以下：るかなび）がある。市民のニーズとして、健康・介護・福祉用に関連する用品について、正しい知識を身につけ、適切なものを利用したいというものが多くあり、最新の情報提供を行う場として「るかなび」のフィールドを活用した、市民のヘルスリテラシーの向上を図るため、企業の協力により、健康・介護・福祉用具展示コーナーを開催した。2016年9月5日から2カ月間、「るかなび」の図書閲覧コーナーの一角に、健康・介護・福祉用具展示コーナーを設置した。この期

- 1) 聖路加国際大学研究センター PCC 実践開発研究部・St. Luke's International University, People-Centered Care (PCC) Research Department, Research Center
- 2) 聖路加国際大学看護学部看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
- 3) 聖路加国際大学学術情報センター学習コミュニティ支援室・St. Luke's International University, Support Office for Learning Community, Center for Academic Resources

問のるかなび来訪者は377名、そのうち、65名が展示コーナーへのアンケートに返答した。アンケートの結果から、展示コーナーが市民の健康・介護・福祉機器の知識ニーズを満たし、ヘルスリテラシーの向上に寄与するものであることが示唆された。今後も、多くの健康・介護・福祉用具の展示を継続する意義が示された。

【キーワード】ヘルスリテラシー、健康・介護・福祉用具、企業展示コーナー

I. はじめに

聖路加国際大学研究センター PCC 実践開発研究部は、People-Centered Care (以下:PCC) の進歩、発展を図り、市民と保健医療専門職とのパートナーシップに基づくケアの実践、およびケアの質的向上と発展に寄与することを目的としている。

PCC 実践開発研究部の活動の1つに、地域に開かれた健康情報サービス「聖路加健康ナビスポット:るかなび」(以下:るかなび)がある。2004年から活動し、2015年度は、年間3,000人余りの通院中の患者や地域住民等の市民が来訪しており、市民のヘルス・リテラシーの向上を図る研究・教育・実践を行う場として、市民、医療職共に活用されている。

市民のニーズには、健康・介護・福祉に関連する用品について正しい知識を身につけ、適切なものを利用したいというものがある。2016年、るかなびは、聖路加国際大学の新しい建物(臨床学術センター)1階に移転したことを機会に、活動に一層の拡大を図りたいと考え、企業による市民のための健康・介護・福祉用具展示コーナー設置を検討し、実践した。

今回、企業展示の実施までの経過と実施内容、評価について報告したい。なお、企業展示については、本稿執筆中の2016年10月28日現在も展示中のため、本稿は途中経過の報告とする。

II. 「るかなび」健康・介護・福祉用具展示コーナーの概要

1. 目的

市民のための健康・介護・福祉用品の企業展示を企画し、市民のヘルスリテラシーの向上の一助とする。

2. 目標

1) 市民のニーズが高い、健康・介護・福祉用品について、展示コーナーで実際に手に取って確認することにより、市民が正しい用具の使い方、選定方法についての知識を身につけることができる。

2) るかなび相談員が市民各々の生活に応じた用具の必要性と活用方法をナビゲートし、市民が主体的に健康

生活を創る助けになる。

3) 上記を通して PCC に関する研究を推進する。

3. 方法

1) るかなびの図書閲覧コーナーの一角に、展示コーナーを設ける。

2) 市民がサンプル用具の使用を行えるようにする。

3) るかなび相談員が市民の各々の生活に応じた用具の活用方法をナビゲートする。

4) 展示のみで販売は行わない。

4. 展示

1) 展示する分野

①健康用具:スキンケア、血圧計、体重計等

②介護用具:口腔ケア用具、とろみ製品、介護食、生活用具、転倒予防関連用具、簡易トイレ、パルスオキシメータ

③福祉用具:杖、自助具等

④書籍:介護や闘病記等

2) 展示期間

1カ月程度の展示期間として月替わりで展示を入れ替える。

III. 「るかなび」健康・介護・福祉用具展示コーナーの実際

1. 展示企業の募集と開催の経緯

聖路加国際病院を含む学内の関連部署の協力のもと、企業展示の開催の可能性のある企業14社と連絡をとり、その中で面談が可能となった5社に趣意書を渡し、概要の説明を行った。その中から、申込みがあった企業と、具体的な内容の検討を行い、開催した。

2. 企業展示の実際

1) 開催期間:2016年9月5日~9月30日

2) 展示内容:外出する際に利用する福祉用具をテーマに選択した。車椅子1台、歩行器2台、シルバーカー2台、4点杖3本、杖1本、折畳み式杖1本、外履き用シューズ6種類、室内用シューズ4種類を展示した(写真1、写真2)。



写真1 展示コーナーの実際(1)



写真2 展示コーナーの実際(2)

聖路加健康ナビスポット

るかなび

健康・介護・福祉用具 展示コーナー

日程 2016年9月5日～9月30日 (土日祝除く)

時間 9:00～17:00

※初日は12:00から、最終日は15:00までの展示となります。

福祉用具ってどんなものがあるかご存知ですか？
普段の生活が便利になる最新の福祉用具を皆様にご紹介します！
ぜひお気軽にお越し下さい！

主な展示商品：歩行器、車いす、杖、手すり、他

置き型手すり 歩行器、シルバーカー おしゃれな杖

聖路加国際大学
聖路加健康ナビスポット：るかなび
東京都中央区築地3-6-2
大村進・美枝子記念
聖路加臨床学術センター1階
(テラスコーヒー奥です)
Tel. 03-6226-6390

協力：ヤマシタコーポレーション

図1 展示コーナーポスター

3) 広報：るかなびに協力を得ている40カ所の施設にポスター貼付・ちらしを配布した。また、中央区社会貢献活動情報サイト、聖路加国際大学ホームページ、SNS(るかなびフェイスブック)へポスターを掲示した(図1)。

4) 開催中、週1回、2時間、協力業者より、福祉用具専門相談員がるかなびに来て、直接説明してもらう機会も提供した。それ以外の時間は、るかなびスタッフから説明し、詳細な説明が必要な場合は、電話、メール等で問合せ、来訪者に対応した。

5) 展示コーナー見学者へのアンケート調査

展示コーナーの見学者に、アンケート用紙を渡し、任意で答えてもらった。アンケートは無記名で、居住地、職業、年代等の属性と、展示物がどのように役立つか、展示に対する満足度(10cmのビジュアル・アナログスケール、以下:VAS)等を問うもので、A4版1枚であった。

3. アンケート結果

1) 開催期間のるかなび来訪者：341名(計測63名, 相

談7名, 立寄り271名)で、アンケートに回答した者は65名であった。

2) 回答者の背景

①属性：中央区29名(区民18名, 中央区在勤者11名)(44.6%), 中央区外36名(55.4%)であった。職業は会社員7名, 公務員1名, 主婦15名, 学生2名, 看護師4名, 介護職1名, その他9名, 不明26名であった。

②性別：女性53名(81.5%), 男性12名(18.5%)であった。

③年代：20代1名(1.5%), 30代8名(12.3%), 40代14名(21.5%), 50代14名(21.5%), 60代11名(16.9%), 70代14名(21.5%), 80代以上3名(4.6%)であった。

④「るかなび」の来訪回数：初めて27名(41.5%), 2回目以上36名(55.4%), 無記入2名(3.1%)であった。

⑤介護経験：ある29名(44.6%), ない34名(52.3%), 無記入2名(3.1%)であった。

3) 展示内容について

①健康・介護用品が、どこで取り扱っているのかを知る機会となった, ②健康・介護用品の中から、自分(または家族等)に使えるものを選ぶ方法を知る機会となった, ③健康・介護用品の使い方や特徴の違いを知る機会となったについて、介護経験の有無別に表1～3に示した。

「そう思う」「ややそう思う」を合わせると、総数で①95.4%, ②95.4%, ③92.3%といずれも90%を越えていた。

表1 健康・介護用品がどこで取り扱っているのかを知る機会となった

	総数	介護経験有り	介護経験無し
そう思う	39 (60%)	18 (62.1%)	21 (58.3%)
ややそう思う	23 (35.4%)	8 (27.6%)	15 (41.7%)
あまり思わない	2 (3.1%)	2 (6.9%)	0 (0%)
思わない	1 (1.5%)	1 (3.4%)	0 (0%)
無記入	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	65	29	36

表2 健康・介護用品の中から、自分（または家族等）に使えるものを選ぶ機会となった

	総数	介護経験有り	介護経験無し
そう思う	39 (60%)	18 (62.1%)	21 (58.3%)
ややそう思う	23 (35.4%)	10 (34.5%)	13 (36.1%)
あまり思わない	1 (1.5%)	0 (0%)	1 (2.8%)
思わない	1 (1.5%)	1 (3.4%)	0 (0%)
無記入	1 (1.5%)	0 (0%)	1 (2.8%)
合計	65	29	36

表3 健康・介護用品の使い方や特徴の違いを知る機会になった

	総数	介護経験有り	介護経験無し
そう思う	38 (58.5%)	16 (55.2%)	22 (61.1%)
ややそう思う	22 (33.8%)	10 (34.5%)	12 (33.3%)
あまり思わない	2 (3.1%)	2 (6.9%)	1 (2.8%)
思わない	1 (1.5%)	1 (3.4%)	0 (0%)
無記入	2 (3.1%)	0 (0%)	1 (2.8%)
合計	65	29	36

①と③については、介護経験のある群であまり思わない、思わないが1割を超えていた。

4) 展示の有用性

①展示品を見て、自分（または家族等）の健康改善への活用を考える機会となったか、②展示は有意義だったかについても、介護経験の有無別に表4～5に示した。

そう思う、ややそう思うを合わせると、総数で①では91.2%、②では87.7%を占めたが、介護経験のある群より、ない群の方が多かった。

表4 本日の展示を見て、自分（または家族等）の健康改善への活用を考える機会となった

	総数	介護経験有り	介護経験無し
そう思う	41 (63.1%)	17 (58.6%)	24 (66.7%)
ややそう思う	19 (29.2%)	9 (31.0%)	10 (27.8%)
あまり思わない	3 (4.6%)	2 (6.9%)	1 (2.8%)
思わない	1 (1.5%)	1 (3.4%)	0 (0%)
無記入	1 (1.5%)	0 (0%)	1 (2.8%)
合計	65	29	36

表5 本日の展示は、あなたにとって有意義でしたか

	総数	介護経験有り	介護経験無し
そう思う	36 (55.4%)	15 (51.7%)	21 (58.3%)
ややそう思う	21 (32.3%)	9 (31.0%)	12 (33.3%)
あまり思わない	1 (1.5%)	1 (3.4%)	0 (0%)
思わない	1 (1.5%)	1 (3.4%)	0 (0%)
無記入	6 (9.2%)	3 (10.3%)	3 (8.3%)
合計	65	29	36

5) 展示企画への満足度

VASで10点満点中、平均7.78であった。介護経験あり群では7.26、なし8.18であった。

6) 展示で新たに知ったこと、今後活用できそうなこと（自由記載）：新しい知識としては、4点杖があること、歩行器の押しやすさなどを実感、杖の選び方、歩行器とシルバーカーの違い、介護用の靴のバリエーションが挙げられていた。今後役に立ちそうなことには、91歳の母がストレートタイプの杖とシルバーカーを愛用中だが、今後の参考になったという記載があった。

要望として、カタログではいろいろ見ているが、現物を見る機会が少ないのもっとたくさん展示してほしいというのもあった。

7) 今後、扱ってほしい製品：介護用品として、食事時の品、栄養食品、補聴器、入浴用イス、手すり、ついでに、保育用品としてミルク、離乳食、知育物品などが挙げられていた。

4. るかなび相談員が受けた意見

「在宅介護を推進されているが、日本の家屋に適した介護・福祉用具がないと感じている。例えば、車椅子に乗ったまま廊下で方向転換できない。介護していく上で、用

途に適した車椅子が必要と感じるが、その都度購入するわけにもいかず、用途を兼ねられる車椅子がないものかと思う」「介護・福祉用具を検討したいとき、デパート等で販売しているのは知っているが、見るだけのために行くには躊躇いがある。ケアマネジャーに相談すると、カタログを渡されるが、実際に手にしたり、見たりして比較したいと思う。街中に気軽に入れるショールームなどがあると良いと思う」「障害があって歩行が困難だが、高齢者用には製品はたくさんあるが、年代が若い人向けのものがないかと思う」という、介護者や若年者からの声が聞かれた。

IV. 考察

市民のヘルスリテラシーの向上に役立ててほしいと考え、介護用具の展示を試みた結果、4週間（土、日、祝日を除く）で、341名の来訪者のうち19.0%の65名からアンケートが回収できた。

回答者は、中央区内と区外はほぼ半数ずつであり、主婦が最も多かった。年代は20-80台までが含まれ、介護経験ありが44.6%、なしが52.3%であった。

展示が来訪者にとって有意義だったと回答したものは、そう思う、ややそう思うを合わせると87.7%であり、VASによる満足度も10点満点中7.8であったことから、この企画が市民のニーズを充足した、意味のあるものであったと評価できる。

具体的には健康・介護用具をどこで取り扱っているかを知る機会となり、健康・介護用具の中から、自分（または家族）に使えるものを選ぶ方法を知る機会となったこと、健康・介護用品の使い方や特徴の違いを知る機会

となったことが、いずれもそう思う、ややそう思うが90%を越え、市民の介護用品とその利用に関する知識を向上させていた。

また展示品を見て、自分（または家族等）の健康改善への活用を考える機会となったのは、そう思う、ややそう思うをあわせて92.3%であり、今回の企画は、市民が自らの健康を考え、具体的な介護用品の情報へのアクセス、活用の仕方を学ぶ機会が提供できたとみなすことができ、展示コーナーを通して、来訪者のヘルスリテラシーの向上への寄与ができたと考える。

また、わずかな差ではあるが、介護経験の有無によって、ニーズの違いはあることが示唆された。経験者はよりよいものを探したい、介護・福祉用具に問題を感じて相談したいという者があったが、一方経験のないものは、現在は必要を感じていないが今後に備えるため、新しい知識を得る機会としていた。

V. 今後の課題

展示コーナーで、実際の製品を手に取ってみたい、また、その上で、説明を聞きたいとの市民のニーズが高いことが改めてわかった。また、アンケートからも、より多くの製品、他の分野でも、展示コーナー開催のニーズが高いこともわかった。

この結果を受け、今回の展示コーナーは、当初の1カ月の予定から、当該企業の協力により、展示期間を延長することとした。

今後も、企業の協力を得て、市民のニーズにあった他の健康・介護・福祉用具の展示を継続していきたい。